朝日新聞

No. 2013.10









大好きなルソー、わが心の友!

||関西スクエア

〕乙島



作家 原田 マハさん「楽園のカンヴァス」 「いつか書く」胸に温め続け25年

作家が自作を語る、朝日新聞関西スクエアの第2回「中之島どくしょ会」が9月20 日、大阪市北区のフェスティバルスイートで開かれた。 ゲストは原田マハさん。画 家アンリ・ルソーを描いた「楽園のカンヴァス」(新潮社)を取り上げ、若いときか ら抱き続けたルソーへの深い愛着や、自身とアートとの関わり、作品化を構想してか ら執筆を決意するまでに25年を費やしたといった創作の舞台裏を明かした。

下手な絵が心に引っかかった

原田マハです。私は画家のアンリ・ルソーが好きで、 好きで、好きすぎるほどです。きょうは、私がこの作品 を書くために人生の半分を費やし、まさにこれを書くた めに作家になった「楽園のカンヴァス」と、主な登場人 物であるルソー、それから、私の小説におけるアートの 役割についてお話ししたいと思います。

「楽園のカンヴァス」の冒頭に、「ルソーって誰のこ とだろう。私は知らなかったのです。けれど祝宴があっ てみんながそれに行ってわたしたちも招ばれてるとあれ ば、ルソーが誰だってそんなこと構ったことではありま

「中之島どくしょ会」詳報

原田マハさん「楽園のカンヴァス」·····1 ─ 7

文楽と市民を結ぶ大学講座が10周年……8-11

「視点/私点」………12—15

垂
t -
12
시
厺
TE 1

「花を訪ねて」ソライロアサガオ15
「とぴっく・ナウ」16—18
「関西スクエア活動報告」19
「事務局から」19

せん」と、ルソーと同時代を生きたパリ在住のアメリカ 人女性作家、ガートルード・スタインの「アリス・B・ トクラスの自伝」という本の文章を引用しました。昔、 この小説をいつか書こうと決めたときから私は、絶対に この一文を使おう、と妄想の中で決めていました。

1908年、「アンリ・ルソーの夜会」というパーティー を彼の友人たちが開きました。そのときのことを面白お かしく書いた一文です。「どこのおじいさん? 画家な の? だれなの?」。誰も知らなかった。20世紀初頭、 パリには若い芸術家が大勢集まっていました。テーマは

何でも、パーティーさえでき ればいいと、どんちゃん騒ぎ が始まったことを表す言葉。 私もこれでこの小説の根幹を つくったという言葉です。

「楽園のカンヴァス」の主 たる舞台は4つです。倉敷の 大原美術館。ニューヨーク近 代美術館。MoMAとも呼ばれ ます。それから、スイスの地 方都市バーゼル。ルソーが活 躍した時代のパリ。

私は作家になる前、キュレ ーター(学芸員)を務め、ア ートの世界に都合20年ぐらい 籍を置きました。東京の六本 木ヒルズにある森美術館の準 備室にいたとき、MoMAと提 携するための窓口になって、 今思うと、よくやったなとい う感じで、めでたく提携を結 ぶことができました。そして MoMAへ、半年余の短い期間 でしたが、派遣されました。

そのMoMAで、私が毎日あ いさつをしていた絵が、ルソ ーの「夢」という作品です。

当時の私のボスは今も現役でご活躍で、私は去年4月 に「楽園のカンヴァス」を持って訪ねました。私が「作 家になりました」と言ったら、びっくりされ、「ルソー が表紙ということは、ルソーの話なの」とおっしゃる。 英語であらすじを言うのは面倒くさいので、「いろいろ あったけど、幸せになった2人の話なんだ」と私がめち ゃくちゃはしょった説明をしたら、「それはいい」。さ らに私が「日本の読者がMoMAへ行って『夢』を見たい と思ってくれているようですよ」と言うと大変喜んで、 「ハリウッドで映画化するときは、全館貸し出しOKだ から」と、冗談ですけど、言ってくれました。

この「夢」は意外と大きいんです。横が2m強、縦が 1 m80ぐらいです。ルソーが亡くなる1910年、最晩年の 代表作です。

ネタをばらしますけれど、小説の最後は、ピカソが、 自分の絵の上に描けと、ほぼ同サイズのカンヴァスを持 ってきて2枚を並べ、どちらに描いたんだという話にな っていました。ルソーのアパートはすごく狭くて、こん なカンヴァスが2枚も入らない。だいぶ上の5、6階あ たりで、階段も狭く、踊り場で回そうにも回りません。

あの場面では、ルソーが夢から覚めたら目の前にピカ

ソとヤドヴィガがいて、「こ れに描け」と言う。もうカン ヴァスが上がっていた。あり えない話です。後から「誰も 気がつきませんように」と祈 りました。そういうアラもあ りますが、まさに、ルソーが 命をかけて描いた晩年の大作 「夢」であります。

ルソーは1844年に生まれて 1910年に亡くなったので、66 年間の人生です。「楽園のカ ンヴァス」の初版の帯に、構 想25年と書いています。大げ さと思われるかもしれません が、本当です。私は、ルソー の没後100年に何かしたい、 とずっと思っていました。

ルソーとの出会いは、岡谷 公二先生がお書きになった 「アンリ・ルソー 楽園の 謎」(新潮選書、1983年)と いう本でした。

私は子どもの頃から絵を描 き、「ピカソもマティスも下 手だな、自分の方がうまい」 と思うくらい、うぬぼれ屋で

した。ルソーの絵を見たときは「何、この下手な絵は」 と、涙がこぼれるぐらい笑った記憶があります。でも、 心の奥に引っかかる強い磁力を一方では感じ、それが何 か悔しくもありました。

ルソーのことを詳しく読める本を探し、大学の生協で この本を見つけました。大学3年生、21歳のときです。 「何だこの画家は。悲しすぎるじゃないか」というのが 読んで最初の印象でした。こんなお笑いの絵を描きなが ら、こんな悲しい人生を送ったことに感銘を受け、この ルソーを何とかしたいと思いました。小説にして再認識 してもらう、自分が絵に描いて再構築する、展覧会を企



「楽園のカンヴァス」(新潮社)の表紙。タイ トルの背景に使われている絵は、小説の重要な モチーフになっているアンリ・ルソー作「夢」 (1910年 ニューヨーク近代美術館)

2013.10

画する、漫画の主人公にする…いろいろ考えました。

そして、いよいよこの小説を書くときが来たと思った のが、本を初めて読んでから25年目、作家デビューして 3年目の46歳のときでした。胸の中に温め続けてきた構 想を、新潮社の担当編集者3人に話したら、口をそろえ て「おもしろい。ぜひ書いてください」と言ってくれま した。非常にうれしかったのを覚えています。さらに準 備に2年かけました。2010年に3カ月間パリで取材し、 バーゼルも取材し、ルソーが亡くなった9月2日に合わ せ、「小説新潮」の同年9月号から書き始めました。

パリの新文化にも、われ関せず

ルソーとは、どんな画家か。素朴派の始祖、素朴の大 砲、非アカデミズムの画家、日曜画家、元祖へタウマ、 税官吏ルソー、楽園妄想狂の画家――いろんなふうに言 われています。税官吏ではないんですが、税金を徴収す るような役人だったため、そう呼ばれたようです。

後の時代には、ポジティブな評価も受けています。シ ュールレアリズムのきっかけをつくったとか、ピカソら に影響を与えたとか。彼自身は全く意識していなかった でしょうが、本当に、わが道を行った画家でした。

ルソーは、ラヴァルという、パリからTGVで3時間 ほどの地方都市で生まれました。アートとまったく関係 のない人生を歩み、40歳のときに突然、ルーブル美術館 などで模写を始めます。それなりの技術がないともらえ ない模写証をもらって、非常に気を良くしました。

それで、サロン=アカデミズムの画家たちが審査員を する権威の象徴みたいな展覧会に応募しますが、箸にも 棒にもかからない。「何で連絡がないのかな。絶対に入 選したはずなのに」と出かけて行き、「私の絵はどうな りましたか」と言うと「そこにあります。持って帰って ください」と言われたというエピソードが残っていま す。結局、サロンでは入選できず、アンデパンダン展と いう無審査の展覧会に仕方なく毎年出し続けました。

2回結婚し、2回とも奥さんを亡くしています。子ど もは1人だけ生き延びた娘がいましたが、父親を嫌い、 地方に嫁いでそれきり縁を切ったといいます。

「夢」を発表した後、ピカソを見出したアンブロワー ズ・ヴォラールという画商からの注文がやっと入ったの ですが、これもピカソが裏で手を回したみたいです。そ して、足が壊疽になって亡くなりました。みとったのは 大家さん夫妻だけ。寂しい最期でした。

ルソーを、あるいは「楽園のカンヴァス」の「夢をみ た」という作中作を理解するうえで重要なのは、19世紀 末から20世紀初頭のパリを想像できるかどうかです。

非常に浮かれた時代だったと思います。大きな都市開 発が行なわれ、エッフェル塔が建ち、飛行船が飛び、鉄 道網が充実し、「パリを目指せ」と人が集まり、人口が 爆発的に増えました。パリ万博を10年に1回ぐらいやっ ています。いろいろな文化が花開き、パリ自体が花畑の ような機能を果たしたのです。

才能ある画家たちも、どんちゃん騒ぎに明け暮れなが ら、切磋琢磨して独自のアートをつくろうと盛り上がっ ていました。1874年、第1回印象派展が開催されまし た。ショッキングな出来事でした。アカデミズムの画家 に太鼓判を押してもらわないとデビューできない時代 に、サロンに落選したやさぐれ者たちが、「じゃあ、お れたちで勝手にやってやろう」と始めたのです。

(以下、画像を映写しながら説明)

カイユボットという印象派の画家です。銀座の街角に 立っているような気がします。写真というより映画です ね。動いていませんか。人物が歩いていませんか。これ が印象派の特徴的な構図です。すぱっと切る。自分の目 で見た動画の風景、今見たそのままを焼きつけるよう な、ドラマ的効果を生んでいます。

彼らがこういう視点を持ったのには、浮世絵の衝撃が ありました。浮世絵の視点というのは日本独自のもので す。例えば広重の鯉のぼりの絵。西洋絵画のアカデミズ ムでは考えられない構図です。鯉のぼりがこんなに大き いはずがないというわけです。私たちならわかります。

広重の雨の風景も、西洋ではありえません。私たちは 漫画や浮世絵を見ているので、雨が縦に線になって走っ ているのは当たり前ですけれど、西洋絵画ではタブーだ ったのです。雨は水だから、そんな風には見えないと。

カイユボットの絵は、手前のものを大きく、奥のもの を小さくして、ぱっと切り取ったようです。浮世絵の影 響を受けているんですが、雨は線では描きません。

そんな時代、我らがルソーは何を描いていたのか。 「広重? 知らない」みたいな感じで、彼の憧れはウィ リアム・アドルフ・ブーグローという巨匠です。そして サロン、権威。それ以外には興味がありませんでした。

しかし、ルソーの絵とブーグローの絵は、どこも似て いません。ブーグローが描くかわいい女の子が、ルソー が描くと、どことなく怖い、みっともない子どもになり ます。けれども、彼は「絵といえば子どもだろう。かわ いいといえば子どもだろう。だから俺は、ブーグローを まねて子どもの絵を描くんだ」と言って描きました。

ブーグローの「ヴィーナスの誕生」(1879年 オルセ 一美術館)を明らかに意識して描いた絵が、ルソーの 「幸福な四重奏」(1902年頃 個人蔵)です。どこも似 ていないんですけど。つい笑ってしまいます。

ただ、ルソーの魅力は明らかです。女性の皆さん、初 めてボーイフレンドの部屋に遊びに行ったとします。彼 の寝室にもし、ブーグローのヌードの絵が掛かっていた ら、ドン引きというか、「すみません、帰りま~す」と なっちゃいませんか。逆にルソーの「幸福な四重奏」が 掛かっていたら、「いいんじゃない」「かわいい。付き 合ってもいいかも」と思いませんか。ルソーのすごさっ て、そういうところなんです。

両方の絵が描かれた当時、上手なのは明らかにブーグ ローです。遠近感ばっちり。陰影もついている。構図も きちんと出ている。頂点が三角形になって黄金律を守っ ている。アカデミズムでいうところの、うまい絵のすべ てをブーグローの絵は踏襲しています。

それがボーイフレンドの寝室に飾ってあったら、なぜ 気持ち悪いかというと、私たちは20世紀のモダニズムを 学んでいるからです。私たちの目は、もう19世紀には帰 れないんです。自分の中に持っている、モダニズムが大 好きな気持ちとか、アートに対しての興味を、どちらか というとルソーの方に強く感じる。それが、私が彼をモ ダンアートの祖と位置付けたい最大の理由です。

そんなルソーが、どんなふうに絵画への熱狂を高めて いったかを、お見せしたいと思います。

「森の中の散歩」(1886~1890年 チューリッヒ美 術館)。かなり初期の作品です。すでに密林に対する情 熱みたいなものが出始め、偏執的なまでに緑を描き込ん でいく片鱗が現れていると思います。

風景や風俗も描いて、非常にミーハーでした。「糸を 垂れる釣人」(1908年 オランジュリー美術館)。どう かと思う絵ですが、飛行船がびゅーんと飛んでいます。

「第22回アンデパンダン展への参加を芸術家に呼びか ける自由の女神」(1906年 東京国立近代美術館)とい う絶対に覚えられない長いタイトルの作品もあります。 同展に毎年応募していたので、プロモーションを誰に頼 まれたわけでもないのに、やってしまったようです。

「子供の肖像」(1ページの写真参照)。ルソーは足 が描けない画家ということで有名でした。この右の絵で も隠しています。左の子(1908年 オランジュリー美術 館)は、埋没しています。右の子どもは、とがった岩の 上に刺さっています。本当に恐ろしいような、顔も完全 に、おかんの顔ですね。子どもだけど、独特の魅力があ ります。全然かわいくないです。

人物プラス風景というのも描いていまして、遠近感が 全く欠落しているシュールな絵です。

「田舎の結婚式」(1905年 オルセー美術館)。花嫁 のベールが前に出ているのだか、後ろに行っているのだ かという感じで、手前にいる犬も、どういう座り方をし ているのかわからない。おじいさんも、切り株にどう座 っているのか、立っているのかもわからない。ダリとか キリコとか、この後に出てくるシュールレアリズムのア ーティストたちが感銘を受けています。「だって、こん な絵、見たことないもん」と。シュールを期せずして呼 びこんでしまったという不思議な絵です

「私自身、肖像=風景」(1890年 プラハ国立美術

原田マハさん



のカンヴァス」で山本周五郎賞。 待ちわびて」 の食卓」 (集英社) 「総理の夫」 (実業之日本社) 「ジヴェルコ

ーヨーク近代美術館勤務を経て2005年

ーカフー

大学第二文学部卒。

森ビル森美術館設立準備室、

962年東京生まれ

館)。不思議なタイトルで、巨大化した自分を描き、左 下に小人のような人。これも遠近感が欠落しています。

「ジュニエ爺さんの馬車」(1908年 オランジュリー 美術館)。写真をもとに描いています。ルソーは、モデ ルや写真がないと描けなかったことも知られています。 彼の代表作の1つといわれ、非常に優れたところもあり ます。下にいる、猫のような犬です。元の写真にはあり ません。この犬がいなかったら、みなさんの視線は中央 の馬車に釘付けになると思います。黒い小さな点が下に あるだけで、人間の視線はそちらへ動きます。画面上の ムーブマン(動き)をつけるという意味で、この犬が重 要な役割を果たしています。ルソーは稚拙なところがあ ったかもしれませんが、こういうところは天才的です。

独特なテーマがどこから来るのかもよくわかりませ ん。好奇心が強くて突発性があるということで、「眠れ るジプシー女」(1897年 ニューヨーク近代美術館)と 「戦争」(1894年 オルセー美術館)。関連性は全くないです。後者は「民衆を導く自由の女神」あたりを意識したと思います。全然違うような戦争の絵で、戦争の化身のような、女神のような、悪魔のような、子どものような、大人のようなものが、馬のようなものに乗って、戦争のようなところを走っていく。全部が「ような」です。大きな作品で、笑えるけれど、本物の前へ行くと動けなくなるぐらい迫力があります。すごい作品です。

そして、いよいよ密林が登場します。密林を描いた最初の作品が「不意打ち」(1891年 ロンドンのナショナルギャラリー)です。興味がないと言っている割に、ちゃんと浮世絵の要素も取り入れ、雨を線で描いています。パリ万博で虎の標本が飾られたのを見たようで、雑誌から転載しているんですね。

パリ万博などで密林とか異国趣味が紹介され、パリに 植物園ができました。総ガラス張りのモダンな建物で、 ここに毎日通って、密林風景を妄想しながらスケッチを したことも有名なエピソードとして残っています。

「飢えたライオン」(1905年 バイエラー美術館)。 「楽園のカンヴァス」に登場しました。ドラマチックな 作品です。ルソーの絵はほのぼのとして素朴なのに、何 でこんな野性的でどう猛な絵も描いたのか。これまた謎 です。彼の中に秘めていた野生の部分を、昇華していた のかとも見えます。

「蛇使いの女」(1907年 オルセー美術館)。これも 有名です。非常に大きな画面で、大変静謐な、笛の音が 聞こえてくるような美しい作品です。

ルソーを見つけた天才ピカソ

ルソーが活躍した20世紀初頭のアートシーンのことを 少し話します。印象派、後期印象派が出てきて、その後 にフォーヴィスム(野獣派)、ピカソが登場します。

1904年、サロン・ドートンヌという展覧会に出されたアンドレ・ドランとアンリ・マティスの作品が、フォーヴィスムという名前を批評家から揶揄されて付けられました。荒々しい色彩の奔流ということで、一大革命だったわけです。「何で山がオレンジなんだ」「どうして女性の髪の毛がオレンジなの」「顔が緑なんだけど」…。当時の人たちはびっくりしました。

この展覧会にはピカソも行っていて、「楽園のカンヴァス」にも書きましたけれども、フォーヴィスムが出てきたギャラリーの同じ部屋に、ルソーの「飢えたライオン」が展示されました。ピカソは、マティスとドランを無視し、「飢えたライオン」に引きつけられたそうです。ルソーも野獣派の仲間入りをさせられかけた、というエピソードです。

ピカソはその頃、23、24歳でした。これから自分がど

ういう作品を描いていったらいいかを、模索していると ころでした。

1907年、「アヴィニョンの娘たち」(ニューヨーク近代美術館)という作品を描きました。その前にはセザンヌが「サント・ヴィクトワール山」などで、自然界のすべてのものは立方体と球体と円錐形に分けられると言って、見えているものを、こういう形に再構築することを始めました。ピカソもセザンヌの考え方に共鳴し、自分の目の前に見えているヌードの女性を、そのまま描くのではなく、自分の頭の中で再構築してつくったのが「アヴィニョンの娘たち」。キュビズム、さらに現代アートにつながっていく大きな流れをつくりました。

ちょうどそのころ、「楽園のカンヴァス」の第五章に出てきますが、ピカソがモンマルトルの骨董屋の前を通りかかると、古いカンヴァスが積み上げられていました。その中の1枚がルソーの「女の肖像」でした。ピカソが「おやじ、これは幾らだ」と言ったところ、「5フランです。1フランもまかりません」と言われ、何と、今の500円ぐらいで買いました。ピカソはこの作品を、死ぬまで離さなかったということです。今はピカソ美術館の所蔵になっています。いかにピカソがルソーの作品を愛していたかが、わかると思います。

当時、ピカソやガートルード・スタインたちのサロンに、詩人のギョーム・アポリネールと、その恋人マリー・ローランサンがいました。ルソーをいち早く見出し、ピカソとともに生前の彼を支援した数少ない友人だったということです。ルソーは2人に感謝の気持ちを伝えたくて、肖像を描いたのですが、似ても似つかないです。ローランサンは怒ったんじゃないかと思いますね。

プーシキン美術館とバーゼル市立美術館にその絵があります。最初にプーシキンの方を描いたらしいんです。それができ上がった頃、「詩人の花はカーネーションなんだ。ごめん、間違えてニオイアラセイトウを描いちゃった」。アポリネールは「いいよ、いいよ」と言ったそうですけれども、ルソーは恐縮して、もう1枚描いたのがバーゼルの絵。花だけ変えたはずなのに、全部違っています。後世への贈り物としか思えないすごい作品を残してくれました。プーシキン美術館展は神戸にも行きますね。朝日新聞社さん主催なので、ぜひ見てください。

そして、冒頭でご紹介した引用文ですけれども、ピカ ソのアトリエ、洗濯船というところで有名なルソーの夜 会が開かれました。

「楽園のカンヴァス」でも「訪問―夜会」という1章 を割いて書いていますが、ルソーが、素朴すぎる人柄も、何を考えているのかわからない作品も、何もかもが面白いからパーティーのネタにしてやるということで、ほとんど彼をつるし上げるようにして招いたというのは、有名な史実として残っています。

この夜会がどうして有名になったかというと、当時まだ何者でもなかった天才たちが、「俺たちは、まだ星くずだけれども、そのうちに大きな星になる」と信じて集まったということです。20世紀初頭のパリの雰囲気や文化、歴史を語るときに、引き合いに出されるのです。

あなたがいる限り書き続ける

さあ、問題の「夢」です。1910年、最晩年に描かれた作品です。これにはヤドヴィガという女主人公がいます。ルソーの作品の最後のモデルになったといわれている人です。カウチに横たわるヌードの女性がヤドヴィガだと、ルソーが自分で名前をつけています。

何者か、今もわかっていません。研究者たちが調べて、ルソーの初恋の女性だったしいとか、その辺でうろついているモデルだったらしいとか、いろいろ言われていますが、1910年のルソーには、ヌードモデルを雇えるほどお金はありません。(「夢」の女性は)ポーズが非常に不自然で、ヌードが下手すぎる。自分の妄想を総合させて描いた作品だと言われています。

けれども、最後の最後、消えかけた命を総動員させて 描いた最後の大作で、目の前にすると、本当に動けなく なってしまうぐらいの迫力があります。絵の具も、たっ た今描き終わったかのようなみずみずしさです。

私は、MoMAに行っている間、毎日、毎日見て、そのときは小説家になるかどうかわかりませんでしたが、いつか必ず何かにしたいと思っていました。2000年のことだったので、ルソーの没後100年まであと10年。「10年間で何とかしてやる」と思いながらこの作品の前に日参したことが、大変懐かしい思い出として残っています。

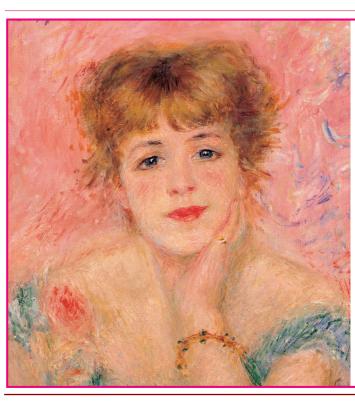
そして「楽園のカンヴァス」を書きあげた後、ルソー

のお墓参りに行きました。書き始める前にも1回。そして去年も、山本周五郎賞をいただいたので、お礼参りに行ってきました。けっこう律儀なんです。

今はラヴァル市内にある大きな公園の一角に、改装された立派なお墓があります。私は「楽園のカンヴァス」を1冊、献じようと思って持っていったのですが、「お墓の上に置いてきて野ざらしになったら嫌だな、どうしようかな。供えるだけ供えて、持って帰ってこようかな」と思ったんです。

そうしたら、驚いたことに、お墓の隣に青空文庫ができていました。「何で私が来ることを知っていたの」みたいな感じで、まるで私がここへ本を納めるのを待っていたかのようにできていたんです。私は欣喜雀躍して、自分の本にフランス語で「Pour Xousseau(ルソーのために)」と書き、「Maha Harada, Japon」とサインして納めてきました。果たして、ラヴァル市民の中に日本語が読める人がいるかどうかわかりませんが、「ルソーの妄信的なファンが預けていったんだな」と、誰かが見てくれるのではないかと思っています。

「楽園のカンヴァス」の最後の章で、ティム・ブラウンがルソーに「友よ」と心の中で語りかける場面があったかと思います。私がこの本を書いたのは、ルソーが好きで、好きで書いたわけですけれども「あなたは私の友だった。この25年間、心の友としてずっといてくれたことに感謝して、あなたが心の友でいる限り、これからも私は書き続けていきたい」という思いを込めて、この一言に万感の思いを込め、最後の1章に添えさせていただきました。ルソーという心の友が私にはいたこと、そして、アートがある人生でよかったと思いながら書いた1冊です。



朝日新聞創刊135周年

プーシキン美術館展 フランス絵画300年 2013年 9月28日 12~12月8日日 神戸市立博物館

PUSHK

*お問い合わせ:078-391-0035 (神戸市立博物館) *主催:朝日新聞社など *当日料金:一般 1,500円 大学・高校生 1,100円 中学・小学生 600円

ピエ−ル=オーギュスト・ルノワール≪ジャンヌ・サマリーの肖像≫(部分)1877 年 ©The State Pushkin Museum of Fine Arts, Moscon

■ 質問に答えて ■

どくしょ会後半では、来場者からアンケートで 寄せられた質問に、原田マハさんが答えた。

Q 「楽園のカンヴァス」のどんでん返しみたいな 意外な結末は、最初から決まっていたのですか。

原田 決まっていました。ミステリー読みの方は腑に落ちないらしく、けっこうおしかりを受けました。オープンエンドといいまして、結末は読者に委ねる、ある意味ずるい逃げ方。ヤドヴィガの左手に握られていたのがピカソのCか、PASSIONのNか、どちらでもいいじゃないかと思い、あの結論を準備しました。

Q 「楽園のカンヴァス」は入れ子(作中作)構造になっています。ヒントになる作品がありましたか。

原田 私のオリジナルです。小説で意識したのは、 ダン・ブラウンの「ダ・ヴィンチ・コード」です。難 しいことを書いています。象徴とか、キリスト教の紋 章とか。それが日本でも多くの読者を獲得したことに 励まされ、多少みなさんに勉強していただく余白を残 し、美術史に対する興味を喚起する形で書きました。

Q MoMAで好きな絵は「夢」以外にありますか。

原田 1点あげれば、ピカソの「アヴィニョンの娘たち」。それから「鏡の前の少女」。マリー・テレーズという若い愛人がいたとき描いた、かわいらしい作品です。MoMAの入場料は25ドル。「高いわ」と思ったときに唱える魔法の言葉をお教えします。「私の入場料で、この美術館を救っている」。すごく良いことをしたような、晴れ晴れとした気持ちで見られます。

Q 最も感銘を受けた美術館はどこですか。

原田 国内では大原美術館。10歳のときに初めて行き、ピカソの「鳥籠」に衝撃を受けました。「なんちゅう下手くそな画家や」と私は、チラシの裏に鳥かごの絵を描き、「こっちの方がうまい」と思いました。海外ではバーゼル市美術館。「詩人に霊感を与えるミューズ」のバージョン2を持っています。バーゼルの人たちはアートが好きでたまらなくて、大切に守っているという気持ちが伝わってきます。

Q 実在する絵画をテーマに物語を紡ぐことの面白 さ、また難しいところは何ですか。

原田 グッド・クエスチョンです。「楽園のカンヴァス」「ジヴェルニーの食卓」、今度発売される「ユニコーン」の3作とも、実在する作品あるいは画家をベースにして書いています。それには利点があって、ルソーとかピカソ、印象派の画家はみなさんご存じですね。どんな悲劇を書いても、「この人は最後にこうなる」と。多少辛いことが起きても、「いや、大丈夫」と、安心して読んでいただけます。

Q ルソーの絵を見て、何がきっかけで「楽園のカンヴァス」の構想が浮かんだのですか。

原田 作品の陰に隠れている、おかしくてしようがないけれども、なぜか涙がぽろぽろこぼれるような、アンビバレントな感覚。そういうものを私はかなり早い段階で嗅ぎとっていたように思います。

Q 次に構想している画家の作品は…。

ダ

1

チ

12

励

さ

力

力

取

新

刊

原田 ピカソです。もう始まっています。「小説新潮」に連載中の「暗幕のゲルニカ」。「ゲルニカ」はピカソが反戦のシンボルとして描いたと思っておられる方がほとんどでしょう。それで間違いありません。ただ、詳しく読み解くと、複雑な経緯と秘話がたくさん込められています。私が早稲田で美術史を勉強したとき、「ゲルニカ」を卒論のテーマにしたいと思ったら、教授に「やめておけ。相手が大きすぎる」と言われました。これを根に持ち、「だったら、やってやろうじゃないか」と、多分そのとき決めたんですね。完成は来年だと思います。「楽園のカンヴァス」と同レベルか、それを超えると自分では思っています。みなさんのお目にとまらなかったら、私は何をやってきたのかということになります。必ず読んでください。

Q マハという名前の由来を教えてください。

原田 ペンネームです。プラド美術館に所蔵されているゴヤの「裸のマハ」「着衣のマハ」という2点の名作からいただきました。スペインでマハというのは、陽気な女の子、やんちゃな女の子、明るいかわいこちゃんとかいう意味らしくて、自分には合わないんですけど、スペインでは受けがよかったです。

Q 笑いのセンスを、何で磨いていますか。

原田 私が好きな男性のタイプは、イケメンより、おもしろい話ができ、笑いネタをさっとくれる人。「本日は、お日柄もよく」というスピーチライターの小説を書いて、研究しました。具体的エピソードや、笑いを盛り込むのが重要なんですね。最初にどうやって皆さんの気持ちをこちらに近づけるか、できるところまで実践したいと、やらせていただいています。

Q 新刊が出るそうですね。

原田 先ほどお話した「ユニコーン」(NHK出版)です。いま国立国際美術館に来ている「貴婦人と一角獣」はパリのクリュニー美術館の至宝で、すばらしい作品です。私は3年前にこの美術館へ行き、胸を射抜かれました。NHKの「日曜美術館」に私も登場させていただき、気がついたら、小説を書くことになっていました。本はジョルジュ・サンド、ショパン、ドラクロアらが登場する超豪華版。図版もいっぱいありますし、ジョルジュ・サンドが書いた『貴婦人と一角獣』に関する寄稿文もおまけでついています。1冊で3度ぐらいお得な作品になっています。



文楽と市民 結んで70周年

大阪市立大学文学部の上方文化講座 名手たちとのコラボに全国から受講者

ユネスコの無形文化遺産にも登録されている大阪生まれの伝統芸能「文楽(人形浄瑠璃)」の魅力をもっと多くの人々に知ってほしい、と大阪市立大学大学院文学研究科・文学部が毎年開いてきた上方文化講座が今年、開設10周年を迎えた。一般市民からの聴講希望は近畿圏にとどまらず全国に広まって年々増え続け、大阪市住吉区の同大学で8月28日から3日間開かれた授業には、定員の120人を大きく上回る応募が寄せられた。名手たちの至芸に間近で接し、講座の人気と長続きの秘けつを知りたくて、取材を兼ねて受講させてもらった。 (黒沢 雅善)

独自教材でよくわかる講義

上方文化講座は大学の正規授業だが、学外の市民にも公開している。文楽の古典を毎年1つ取り上げ、その代表的な場面を、講義と実演の両方から掘り下げて学ぶ。今年の作品は「壇浦兜軍記」の「阿古屋琴責の段」。

平家を破って天下を取った源氏は、頼朝を敵と狙う平家の忠臣、悪七兵衛景清の行方を聞き出そうと、景清となじみの都の遊女・阿古屋を堀川御所へ引き立てる。詮議役の代官、秩父庄司重忠は、「知らない」と言う阿古屋を拷問にかけようとする相役を制し、彼女に琴と三味線、胡弓を弾けと命ずる。本当に知らないなら、調べに乱れや曇りがないはず、というわけだ。阿古屋は見事に弾ききり、重忠は「言葉に偽りなし。音色は心の誠を表す」と言って彼女を許す——というあらすじだ。

文耕堂と長谷川千四という人の合作。大阪の竹本座で

享保17 (1732) 年に通しで初演された。歌舞伎の演目に もなっているが、現在はもっぱら、全五段のうち三段目 のこの「琴責」だけが演じられる。

午前中は講義。まず作品の内容をよく知り、より深く 味わうための基礎をつくってもらう狙いだ。

第1日。近世文学が専門で浄瑠璃研究者である久堀裕朗准教授が文耕堂について、「江戸中期の人。近松門左衛門の弟子で、初期は松田和吉と名乗った。作風は素材となる歴史から遊離することが少なく、語り物性が強い。詳しい生涯は不明だが、人形浄瑠璃史上、大事な人」と解説。さらに、「壇浦兜軍記」には近松の「出世景清」など多くの先行作品があることや、初演時の人形はまだ一人遣いだったといった上演史を紹介した。

続いて、講座の企画委員長を務める小林直樹教授(日本中世文学)が重忠の人物像を、「源平盛衰記」や「吾妻鏡」にある記述を引き、「人並外れた力持ちでありな



がら、廉直で礼法をわきまえ、音楽を愛した」と述べ、 これが劇の大事な伏線となっていると解説した。

第2日。松浦恆雄教授(中国演劇)は、奇抜な着想という点が「琴責」と共通するとして、三国志演義を題材にした「空城の計」という京劇をとりあげた。蜀の諸葛亮。(孔明)が、野戦に敗れて少ない兵で城にこもった際、司馬懿が率いる魏の大軍を前に城門をわざと開け放ち、伏兵が潜んでいるのではないか、と相手を警戒させて退散させた話を、京劇の動画を映して紹介した。

第3日。お茶の水女子大学の神田山築准教授(日本近世史)は、①太夫と三味線弾きによる「茵講」という同業者集団が江戸時代にあった。組織に属さない「素人」と呼ばれる芸能者が増えて利権を脅かされ、結束する必要に迫られたのではないか ②大阪では川を浚渫して建設用土砂を寺社へ寄進する「川浚い」「砂持」という作業が町衆を徴用して行われ、祭のようにぎわった。その様子を浄瑠璃の文句で表した刷り物が、盛んにつくられた――などをあげ、民衆が文化の大いなる生産者となり、浄瑠璃を身近なものとして楽しんだ、と指摘した。

文学と演劇の授業だと思って来たのに、外国の演劇との類似や、文楽を育んだ江戸時代の大阪の風俗にもスポットを当て、歴史まで教えてもらえた。楽しい。

受講者に配るテキストはすべて主催者側の手づくり。 関連する古典文学作品の記述、他の研究者の論文、資料の写真・図、年表などを豊富に載せてあり、とてもよくわかる。準備する手間だけでも大変だろうに、とうならされる。古典作品を幾重にも分厚く包んでいたベールが、講義を1つ聴くたびに、1枚ずつはがれてゆく。中身のお宝の姿が少しずつ、くっきりと見えてきた。 ▲ 講座の最終日、「壇浦兜軍記 阿古屋琴責の 段」を文楽技芸員たちが、受講した市民らが見守 る前で、本番舞台さながらに演じた=講座の写真 はいずれも、大阪市住吉区杉本町の大阪市立大学









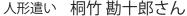
10年間に取り上げた作品

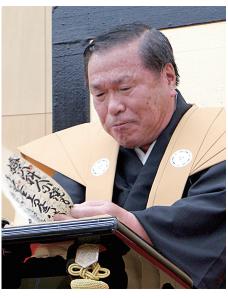
2004年度「曾根崎心中」※
2005年度「国性爺合戦」
2006年度「国性爺合戦」
2006年度「真性命合戦」
2007年度「菅原伝授手習鑑」※
2008年度「義経千本桜」※
2009年度「仮名手本桜」※
2010年度「一谷嫩軍記」
2011年度「生写前話が記ばなし
2012年度「絵本太功記」
たいのうらかぶとぐんま
2013年度「壇浦兜軍記」

◇2012年度までの授業の内容 は講座のホームページ(www. lit.osaka-cu.ac.jp/lit/lect/kamigata/ index.html)で閲覧できる。※ 印は「上方文化講座」シリーズ として、和泉書院(〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町7-6 ☎ 06-6771-1476)から刊行され ている=**左の写真3枚**。税別 1900~2000円

講座を支える文楽三人衆







太夫 竹本 津駒大夫さん



三味線 鶴澤 清介さん

本場ならでは一迫力の実演

午後は実技を交えた授業。

講座のもう一方の重要な主役が、現代文楽界の中核を担う人形遣いの桐竹勘十郎さん、太夫の竹本津駒大夫さん、三味線の鶴澤清介さんの技芸員三人衆だ。2004年にこの講座が始まったときに協力を快諾し、以来1回も欠かさず参加してくれている。大学の充実した講義内容が魅力なのはもちろんだが、多くの受講者の一番のお目当てが、この3人なのは間違いないだろう。

第2日。津駒大夫さんと清介さんが、まず登場。直前 に久堀准教授の講義で受講生たちが「琴責の段」を講読 したのを受けて、その前半を素浄瑠璃で披露した。

「鳬の脛短しといへ共、是をつがば憂なん。…」

三味線の音に導かれて、義太夫の語りが始まった。教 室の空気がピンと引き締まった。

話が少し脱線する。演奏舞台(「床」という)の真正面最前列に大学が記者席を設けてくれたので、他の聴講者には申し訳ないが、名手2人の熱演を目の前で満喫できた。額を流れ落ちる汗も拭わず声を振り絞る津駒太夫さん、楽譜も使わず見事な撥捌きで応える清介さん。そのうえ、シャッター音が耳障りだったに違いないのに、写真撮影までお許しくださった。写真上の右と中央は、そうして撮らせていだいた。感謝に堪えない。

勘十郎さんも、第2日後半から合流した。「もう10年目なんですね」と感慨深げ。阿古屋や重忠の役に使う人形を手に取り、分解して構造を説明したり、さらに、「主遣い一人では人形は動きません。左遣い、足遣いの三人の息が合って初めて、命が宿った動きができます」と、様々な所作を実演してみせた=**同左**。

これに先立つ第1日には、囃子の望月太明藏さんと望

月太明十郎さんが特別初参加した。怒りや驚き、嫉妬などの感情から、雨、雪、風の音までを、鼓や太鼓だけで多彩に表現してみせ、受講者に楽器を実際に打たせてくれるサービスも。体験した1人はコツを教わりながら、「思うように鳴ってくれない。軽々と演じておられるように見えましたが、難しいんですね」と驚いていた。そして第3日のフィナーレ。

太夫、三味線、人形遣い、三業一体となった舞台実演を、教室中が聴き入り、見入った。授業で基礎知識を十分に授けてもらったおかげで、初めて見るような気がしない。何度も劇場へ通って、すっかりなじんだ舞台のように感じられた。難しいと思っていた古典芸能が、こんなに簡単に「わかってしまって」いいのだろうか、と怖いくらいだ。抽選があるとはいえ、これがすべて受講無料とは、もったいない。申し訳ない。無形文化財級のす



今年は囃子の望月太明藏さん(右)と 望月太明十郎さんも特別参加した

ばらしい講座だと思った。

受講者の反応は…。

大阪市内に住む80歳代女性。「子どもはとうに独立して独り暮らしですが、ここに来て勉強し、すばらしい芸を見ると、気分がシャンと若返ります」

首都圏から来たという男性。「講義と実演がセットになっているのが、いいですね。作品の背景や作者の狙い、登場人物の心の動きがよくわかる。古典じゃなく、現代の劇として素直に楽しめます。東京では、とてもできない、文楽のルーツである大阪の大学ならではの企画です。ずっと続けて、もっともっと広めてほしい」

関西スクエア会員のフリー・アナウンサー、坂口智美さんは、昨年と今年と続けて受講した。「昨年は補助金問題の真っ最中で、大阪人としての判官びいきの思いから受講しましたが、そのレベルの高さと熱気にびっくり! 大学・文楽界・受講生…まさに三業一体の授業は、文化芸術を民が育てた大阪ならでは。めでたく10周年を迎え、学問の創造の場である大学の、新しいモデルケースになるでしょう。馥郁たる文学の香りに包まれた3日間は、学生時代のように至福の時でした」

「20年目までやります」宣言

実演を終えて、文楽技芸員3氏が講壇に立ち、あらか じめ受講生からアンケートで募った質問に答え、さら に、10周年を迎えた講座にかける思いを語った。

勘十郎 文楽は面白いです。最初からは、わからなくていいんです。どんどん見に来てください。ずっと大阪に続いている芸をなくしては、先人に申し訳ない。若い人たちに知ってほしい。(講座の講師を)そんな気持ちで続けさせてもらっています。20年目までやりますよ。

津駒大夫 文楽の楽しさを体験してもらえたら、お金いりません。講座に最初に出たときは「何で私なの。ほんま私でええの」という気持ちだった。演じて話した内容が本になり、証拠として残る。恐ろしいですけど、こうなったら、これを励みにして、いっそう勉強します。

清介 古典芸能に接する意義…なんて難しいこと考えんと、楽しんでください。若いときは師匠や先輩から教わることが、なかなかわからんかった。(今、師匠や先輩の立場になって)ああ、そういうことやってんなとわかる。私もしっかり教え、改めてしっかり学びたい。

「本朝廿四孝」で来年も開講します

上方文化講座の歩みや今後の抱負を、第1回から企画 委員長を務めている小林直樹教授=**写真**=に聞いた。

――なぜ文楽を取り上げたのですか。

「講座を始める計画が持ち上がったとき、大阪を代表 する伝統文化といえばまず文楽、と自然な流れで決まり

ました。当初3年間は近松物を扱うという ことで出発しましたが、まさか、ここまで 文楽1本で通すことになるとは、思いもし ませんでした」

----それが、ここまで来られたのは···。

「まず何より、桐竹勘十郎さん、竹本津 駒大夫さん、鶴澤清介さんの3人のおかげ です。ほとんど手弁当で、海外公演から帰 った直後などの忙しい中をやり繰りして、 駆けつけてくださいました。この支援抜き に、講座の存続は考えられません」

――どのように講座を組み立てているのですか。

「久堀准教授が学術的な側面、私が運営面と役割分担していますが、重要な点は企画委員会で決めています。 文学部の事務スタッフ、国語国文学専攻の大学院生、学部生が一緒になって、教材の作成、会場の設営、受付などを助けてくれます」

講義の記録が本になっています。

「3冊出版できました=9ページの表参照。初めての方

にもわかりやすい鑑賞の手引になっています。利益度外 視で協力してくれている出版社へのカンパだと思って、 ぜひ、お求めいただきたい。」

――市民の反響も上々のようです。

「首都圏をはじめ北海道、九州からも来ていただいて

います。近畿圏以外にお住まいの方が十数%にのぼります。もちろん、文楽というすばらしい芸術があってのことですが、この講座が全国的に認知されてきたとみていいのではないでしょうか」

――学生の受講は、増えていますか。

「最近は40名前後で安定しています。姿勢も真剣です。一緒に学ぶ市民の熱気が、 良い刺激になって伝わっていると思います」

一まだまだ、やめられませんね。

「区切りの10周年まで何とか続けよう、 と一同がんばってきました。実は、11年目

以降どうするかは、まったく白紙だったんです。つい先日、文楽劇場を訪ねて協力の了解がいただけ、来年は『本朝廿四孝』を取り上げて開くことが決まりました』

――勘十郎さんは先ほど、「20年目までやります」と おっしゃっていました。

「望外のエールと受け止めています。本当にありがたい。おかげで、さらに先の見通しが立ってきました」



視点/私点

会員からの寄稿

ライフ・ワークでプレゼン塾



武庫川女子大学教授 たつみ 都志さん

9月8日(日)早朝、2020年の東京オリンピック開催 が決まった。

テレビは一日中この話題で持ちきりだった。7人のプ レゼンターの「日本人離れした」プレゼンテーションが 絶賛され、「日本人はプレゼンの苦手意識から脱却した のか」とまで言われた。彼らの見事なプレゼンにはイギ リス人で、オリンピック招致に長けたプロのコーチがつ いたことが判明した。

私は5月に思いついて飛び込んだ世界が間違ってない ことを確信した。それは「日本プレゼンテーション・ス ピーチ能力検定」の仕事である。

2011年、スティーブ・ジョブズの急逝によって書店に 並んだプレゼンの本の多さに、今こそ日本社会がプレゼ ン能力の向上に向かっている、と実感し、我流で授業に も取り入れた。

そして2013年3月、アメリカ分校での語学研修の最後 に、引率者として日本人研修生と現地の先生のために英 語でのプレゼンをした。中学英語に身振り手振りを交え てのスピーチだったが、現地の先生方に好評だった。そ のとき、スピーチにおける非言語の重要性を痛感した。

帰国してからプレゼンのメソッドを研究しよう、と思 ってネット検索し「日本プレゼンテーション・スピーチ 能力検定」というサイトを見つけた。5週(計5日間) の講習を受ける前と受けたあとの動画が Before & After という形でアップしてある、実に魅力的なサイトだっ

①生徒がスピーチをした後、良かった点や足りない 点を互いに講評する。中央が講師のたつみ都志さん **⑤さらに後日、生徒に動画を見せながら、荒井好一** さん(中央)とたつみさんがきめ細かく個人指導す る。こうしたレッスンを積み重ね、自分の考えを正 しく話して伝える技術を磨く=大阪市西区の教室



た。理事長・荒井好一氏の「日本人はなぜスピーチを学 ばないのだろう」という著作にも共感した。5月、アポ イントを取り、「大阪教室を開講するという目的で、私 をマンツーマンで指導してほしい」と頼んだ。そして7 月下旬、大阪市西区北堀江に大阪教室を開講した。講師 は荒井氏と私の2人である。

この教室の教義は一言で言うと

「スピーチは聞くものではなく見るものだ」

ということだ。中身はさておき、外見を大事にするた めに3つのことを徹底的にレッスンする。

7月に堺市から功績者表彰を受けた=**写真**。環境審議会委員を長年務めたことが評価されたものだ。かつてN新聞に「私の都市論」という全国版コラムがあり、私が「ハイヒールで安心・安全な都市は幼児や高齢者にも優

しい」旨を書いたところ、堺市 役所の男性職員に注目され、審 議会にお誘いくださったのだ。 曰く「男性では思いつかない視 点」——当然である。

私は大阪府庁で「役所言葉を考える会」の座長を務めたり、神戸市や尼崎市での都市・文化計画等の審議会経験もあったので、深く考えずに承諾した。27歳で学術博士号を取得したときの論文は「サロメと世紀末都市」。広義的には都市論と言えなくもない。環境審議会では専門の先生方が多く、勉強させて

いただくとともに、私は素人&女性目線、文学屋(言葉のチェック係)、お笑い系(和やかな雰囲気作りに貢献したとの感謝?のお言葉を頂戴することもある——皮肉か?)の立場で15年余り委員を続けた。表彰は有り難い

のだが、正直、好き勝手に振る舞っていた私がなぜ?と いう気持ちはある。

原発事故以前の夏、市民対象に節電について講演もした。「贅沢大好き・無駄大嫌い、ケチは美徳!」との自

説は結構ウケたと自負している。「物を大事にする心は、人を大事に思う心に通じる」と私は信じているし、同調してくださる方も多かった。

文学屋の私だが、社交ダンスの月刊誌に20年近くエッセイ「女心のダンシング」、自衛隊関連季刊紙には「女心の防衛論」を10年連載している。繊維の業界月刊誌に「女心のファンション考」を連載したこともある。昨年からはクルーズ学会誌に体験(ユーザー&女性目線)をもとに豪華客船の旅エッセイ

を書き始めた。「毒舌」を活かせることならどんな分野の執筆でも講演でも喜んでお引き受けする。私が生きて来た環境は、そんな素敵な「ぬるま湯」。そして来年の還暦を前に、私はまだハイヒールで闊歩している。



文学屋・お笑い目線で15年

1. 手…意味のある動きをする

2. 声…滑舌はもとより、声の使い分けを学ぶ

3. 目…聴衆の1人1人の目を見て話す

こんなことは学校教育では学びもしない。あえていえば劇団員のレッスンに近い。40年間教壇に立ってきたが、初めてレッスンを受けた時には、目からウロコが落ちた思いがした。この教義は、人前で話すことが苦手な日本人、根拠なく自分は話し上手だと勘違いしている日本人にとって驚異的なメソッドなのだ。

そしてわくわくしながら、かたっぱしから友人に話すと、もと日本航空の社員でインターナショナルなレッスンを受けた友人が、「その方法は Time Management International というところの方法と一緒だ。僕はそこのライセンスを持っている」と言った。

この瞬間、私は確信した。言語を越えたプレゼンテーションがある、と。例え語学力のレベルが低くても、相手に訴えるプレゼンは出来るはずだと。

グローバル時代到来、とのうたい文句の中、日本人は「語学力」とりわけ英語力の向上が責務のような脅迫観念にかき立てられているが、本当にそうなのか? 込み入った話まで通じる語学力が果たしているのか? 英語をプロ並みに制覇することは、言語系統のまるで異なる日本語を母国語にしている日本人にとって、大いなる時間の無駄使いなのではないか?

友好関係を作るには、複雑な言語はいらない。高度な外国語取得にかける金と時間があるなら、何かのプロパーになることにかけた方がよい。込み入った交渉ごとは通訳に任せればよい。それより、初めてあった異国の人間と、短時間で友好関係を結ぶことの出来る「人間力」をつける方が重要である。

7人のプレゼンターがまさにそれを実践して見せてくれた。彼らが「特殊な日本人」ではなく、すべての日本人が堂々たるプレゼンターになることを願う。2020年までに。

「日本プレゼンテーション・スピーチ能力検定」大阪 教室は、大阪市西区北堀江1-1-27 イマイビル3階 ア ーツ☆エンターテイメント学院(電話 06-6531-3993)。 東京本部は電話 03-6206-1730。ホームページは http:// supiken.jp/

共同作業なくなり壊れゆく村

兵庫農漁村社会研究所代表 保田 茂さん

盆前の草刈りもせず郷の道

お盆の季節、この時だけは静かな郷に遠くのナンバーを付けた車が出入りし、夕方にはお墓参りの人の姿もちらほら見られ、一寸華やいだ気分にさせられる。

まずはご先祖を迎えるため、そして帰省客を迎えるた

め、この時期、日本中の村では村人が総出で村道や水路 の草刈りをし、小奇麗になった風景の中でお盆を迎える のが習わしであった。

(兵庫県豊岡市の)私の実験畑は郷の一本道の傍にあり、以前は畑に敷く草が欲しいので村道の草刈りをし、区長さんから村人ではないあなたに草刈りをしてもらってと感謝されていたが、次々と高齢の方が亡くなるにつれ、いつしか実験畑の傍の村道は私が草刈りをするのが当たり前になってしまった。

なかなか時間を合わせるのが難しく、いつも村の共同 作業が終わってから、一人、村道の草刈りをするのが常 であり、何となく気恥ずかしい思いもあった。今年も、 また遅くなったとの思いで、盆前ぎりぎりに草刈りに出掛けたところ、なんと、村道の至る所の草が茶色く枯れていた。水路の草はまるで手づかずであった。

高齢化と世代交代もあって、村を小奇麗にしてご先祖 を迎えると言う大事な共同作業まで中止されてしまった ようだ。

炎天下、一人、黙々と道の草刈りをし、我ながら美しくなったと振り返った時、一人の高齢者が単車を止め、「綺麗になりましたな。昔は皆でこんなふうに村を綺麗にしたもんだが、今の若い衆は薬を撒けばいいとこんな有様ですわ」と、茶色く枯れた道端を眺めるのであった。日本の村は内部から確実に壊れつつあるようだ。



被爆死した元タカラジェンヌの悲願を演じ継ぐ

フリーアナウンサー 坂口 智美さん

8月6日(火)午前8時15分、蝉の声がサイレンの音にかき消される。今年も焼けつくようなその日、私は広島にいた。平和大通りにある「さくら隊原爆殉難碑」で例年の「さくら隊を偲ぶ集い」が行われ、その一員が主人公の朗読劇「私は芝居がしたいの!~原爆に散った元タカラジェンヌ園井恵子~」の関係者も参列した。

来年、創立100周年を迎える宝塚歌劇団。数え切れない卒業生の中に、広島に投下された原爆の為に亡くなった未完の女優・園井恵子がいた。娘役で活躍し、退団後は新劇女優に転身、阪東妻三郎と共演した「無法松の一生」で注目を浴びた。原爆投下当日は、移動劇団桜隊の一員として広島に滞在、爆心地近くの宿舎で被爆するが奇跡的に一命をとりとめ、神戸の知人宅まで帰り着く。しかし、6日後に容態が急変、原爆症特有の大量出血で死亡した。彼女の波乱の生涯を描いた朗読劇が、今年8月6日午後、広島の爆心地に近いホールで初演された。奇しくもこの日は園井恵子の100歳の誕生日だった。

彼女に妹のように可愛がられ、その臨終に立ち会った 宝塚歌劇団の後輩・内海明子さんに当時の状況を聴き取り朗読劇にしたのがフリージャーナリストの宮田達夫 氏。演じるのは、元タカラジェンヌの女優・春風ひと み。在団中は歌・演技・ダンス三拍子そろった娘役とし て活躍し、退団後も舞台やテレビで活動、名女優の呼び 声が高く、一人芝居「壁の中の妖精」では紀伊国屋演劇 賞を受賞している実力派だ。

物語は、高等女学生だった園井が宝塚に憧れ音楽学校 に入学した頃から、亡くなるまで。

園井恵子の写真パネルの前で演じる春風ひとみ=写真。園井恵子、小夜福子、歌劇団の教官…幾人もの人間がまるで蘇ったかのようにその場に現れる。平和な日常生活の幸せ、戦争・原爆の悲惨さ、人々の無念の思いを見事に語り上げ、歌いあげた。会場は68年前にタイムスリップし、あっという間の50分だった。

宮田達夫氏は「戦争が終わり、やっと芝居ができると 喜んでいた園井さん。この朗読劇が無念の思いで亡くなった天国の彼女と内海明子さんに届けられたら幸いで

す」。春風ひとみは「大先輩の思いを受け継いで、平和 の尊さを伝えていくことは後輩である私の使命。私の宝 塚100周年事業と思い演じました」と語った。

朗読劇観劇後の夜、元安川でとうろう流しに参加し た。68年前多くの人々が水を求めてたどり着いたその川 に、色とりどりの灯りが浮かぶ。愛しい人の名と想いが つづられたとうろうは、漂いながら寄り添っていく。平 和な世界を喜ぶかのように、川全体がほほ笑んでいた。

ジャパニーズオペラの ピン芸を始めています

(株)あんどシステム監査役 池田 順一さん

今年は新島八重をはじめ日本のキリスト者女性の生き 方が注目されています。すでによく知られていた細川ガ ラシヤ夫人についても、オペラ「勇敢な婦人」が1698年 本場ウィーンで上演されていましたが、最近その台本が 復元されました。来年はこの台本によるオペラが長岡京 市で上演されます。

逆に、日本芸能にも馴染んでいた当時のキリシタン武

土が使っていた義太夫節によるジャパニーズオペラ「イ エスキリスト物語」は記録に残されていません。しか し、幸いにも大阪では、生きた世界遺産文楽を構成する 多くの技芸員が、この創作に取り組んでくださいまし た。世界に通じるイエス・キリストの賛美が生まれ、人 形が加わり、ゴスペル・イン・文楽が大阪で創作され、 日本各地で上演されるにいたりました。昨年は西宮市の 白鷹禄水苑での公演がとても評価されました。今年は歴 史的建造物である川口基督教会(大阪市西区)の修復勧 進興行として、12月23日に昼夜2回公演が行われます。

私が試みているのはこの義太夫節のサワリをジャパニ ーズオペラのピン芸(1人で演ずる芸)として真似るこ とです。プロの声楽家にもお願いしていますが、難しい のです。最近豊竹英太夫師匠の承認を得て、サワリ2題 (最後の晩餐、ペテロの嘆き)のDVDを作成し、賛美 義太夫友の会として活用する仲間を募り始めています。 8月にマレーシアで350人の前で紹介する機会が与えら れ、応答はよかったです。この勢いで、11月10日天保山 まつりの菱垣廻船の船出口上を依頼されており、師匠に 相談して準備中です。さまざまな場で、この世界遺産が 生かされますよう、ご協力をお願いいたします。

訪花 ソライロアサガオ



アサガオといえば夏の花。ところが、この種類はむ しろ、秋たけなわになってから見頃を迎える。**写真**は 「ヘブンリー・ブルー」という代表的品種。群生して ときに10m近くつるを伸ばし、数百輪の花を一斉に咲 かせる。名前のとおり空の青と競い合う様は圧巻だ。

別名セイヨウアサガオ。サツマイモの仲間で、メキ シコなどの中米原産。やせ地でも雑草を押しのけ、た くましく育つ。丈夫さが受けてか、最近の普及ぶりは 在来種アサガオを圧倒している。「これじゃ、どちら が本家かわからない」と嘆く声も聞く。

ええやんか、と私は思う。土着種が外来帰化種に生 存を脅かされる。伝統の花が、より栽培しやすい新種 に取って代わられる。手放しで肯定はできないが、人 間の営みが続く限り、避けがたいことだ。

この花の故郷にはかつて、アステカ帝国が栄えた。 南米にインカ帝国も。そこを欧州の征服者たちが残虐 卑劣な手口で侵略し、巨万の財宝を奪った。ひょっと したらこの花は、滅ぼされた民の無念を今も宿し、逆 に世界中に広まって、ささやかな美の復讐をしている のではないか。ふと、そんな気にさせられる。(雅)

大阪府吹田市の路傍で

・・・とぴっ(・ナウ・・・・

イベント・出版等の情報

連続市民公開講演会 「都市の再生 みどりと文化を考える」

関西経済同友会さまから

大阪に残る最後の一等地といわれるJR大阪駅北側の 通称「うめきた」には、今春「グランフロント大阪」が オープンしたのに続き、第2期地区の開発も近く提案募 集が始まり、来年度にマスタープラン作成に入る予定で す。しかし、大阪のオフィス需要は乏しく、一方で中心 部には緑が少ないままです。21世紀の都市としての格を 上げるには「みどり」が不可欠との視点に立ち、表題の 講演会を9月から始めました。引き続き下記の日程とテ ーマで開きます。どうぞ、ふるってご参加ください。

◇第3回 11月12日(火)

「新しい公共空間創造とみどりの都市デザイン」

講師:佐々木 葉二・京都造形芸術大学教授

◇第4回 12月11日(水)

「都市魅力を高める花とみどり一美の文明論」

講師:白砂 伸夫•神戸国際大学経済学部都市環境•

観光学科教授、ランドスケープアーキテクト

◇第5回 2014年1月9日(木)

「都市経営とみどり」

講師:涌井雅之・東京都市大学環境学部教授

◇申込受付開始~締め切り(当日消印有効)

第3回:10月7日(月)~28日(月)

第4回:11月5日(火)~26日(火)

第5回:11月26日(火)~12月17日(火)

【以下は各回共通】

- ◇総合司会:篠崎 由紀子・関西経済同友会 大阪まちづくり委員会 うめきた部会長
- ◇時間 14~16時 (開場13時半)
- ◇ところ:追手門学院大阪城スクエア大手前ホール(追手門学院大手前中・高等学校本館6階)

大阪市中央区大手前1-3-20 (ドーンセンター隣)

- ※京阪電車天満橋駅東出口14番、地下鉄谷町線天満橋駅 1号出口からそれぞれ東へ徒歩7分
- ◇無料 定員300名
- ※申込者多数の場合は抽選とし、当選者には1週間前を 目処に参加証を送ります。当日ご持参ください。落選 した方にも連絡します

在信 大阪市北区中之島 6-2-27 中之島センタービル 28 階 (一社) 関西経済同友会 「連続市民公開講演会」 第○回講演会 係



- ◇申込方法 往復はがきで。上の図のようにご記入ください。
- ※1通で2名までお申し込みいただけます。1通で複数 の講演会へのお申し込みはできません
- ◇主催:関西経済同友会、サントリー文化財団、追手門 学院大学地域文化創造機構
- ◇問い合わせ先 関西経済同友会企画調査部 松尾・野畑(☎06-6441-1031 平日9時半~17時半)

講演「上方の舞踊の魅力」

上方文化評論家 福井 栄一さんから

上方の地は、長い歴史を通じて、優美な舞踊文化をは ぐくんで参りました。上方の舞踊の歴史や現況などを楽 しくご紹介します。どなた様も賑々しくお運び下さい。

- ◇とき 10月23日 (水) 14時~ 15時40分
- ◇ところ 立命館大阪梅田キャンパス (大阪市北区小松 原町2-4 大阪富国生命ビル5階)
- ◇講師 福井栄一
- ◇料金 1,000円
- ◇定員 100名(先着順・要予約)
- ◇お申し込み・お問い合わせ 立命館大阪梅田キャンパス (☎ 06-6360-4895) へお電話を!

1937 (昭和12) 年に日中戦争が始まると、総力戦体制 に向けて国民を動員するための宣伝活動が活発になりま した。当時の先端的なデザインや技法を駆使した宣伝

玉

和

12月15日(日)

目·耳·WAR

(展覧会のチラシから)

は、視覚、聴覚に訴え て当時の人々を戦意高 置でした。

本展では、戦時ポス ターやチラシなどの視 覚資料を中心に、軍歌 や歌謡曲などを収録し たSPレコードやラジ オ放送などの聴覚資 料、子ども向けの玩具 など、感性に訴えかけ る歴史資料を展示しま す。

この展示を通して、 現在にも続く情報によ る嗜好の操作について

考え直す機会となることを願って開催いたします。

◇とき 10月23日 (水) ~ 12月15日 (日) 9時半~16

時半(入館は16時まで)=月曜休館

◇ところ 立命館大学国際平和ミュージアム(京都市北 区等持院北町56-1)

※ J R ・近鉄京都駅から市バス50、京阪電鉄三条駅から



れ立命館大学前下車す ぐ。阪急電鉄西院駅か ら市バス205でわら天 神前下車、西へ徒歩約

10分ほか

◇参観料 大人400円 (350円)、中・高生 300円 (250円)、小学 生200円 (150円) = カッコ内は20人以上の 団体料金。

市バス15、59でそれぞ

※関西文化の日の11月16 日(土)、17日(日) は無料

※常設展もあわせてご覧 いただけます

- ◇主催・問い合わせ先 立命館大学国際平和ミュージア ム (**お** 075-465-8151 FAX 075-465-7899)
- ◇展示協力 京都工芸繊維大学美術工芸資料館
- ◇後援 朝日新聞社ほか

総動員体制と戦意高揚

女性学講演会

「ミステリー小説の美女いろいろ ―比較文学的に考える―」

大阪府立大学教授 堀江 珠喜さんから

スキャンダルや事件に関わった若い女性が「美女(美 人)」として報道あるいは物語られることは稀ではな い。ただし多くの場合「美」の基準が極めて曖昧で「そ れほど綺麗じゃないのに」との陰口が伴うこともある。 だが、一般的にこのくらいの誇張は、マスコミなどの 常套手段とみなされているのではあるまいか。そのよう に単なる客寄せ文句とわかっていても、やはり「美女」 は大衆受けする「記号」なのだ。ミステリー(推理)小 説においても同様で、被害者、加害者、探偵役のいずれ かに「美女(?)」が起用されることは、特に近年多い ように思われる。映画やテレビドラマといった視覚化の 機会が増え、その傾向が強まったのかもしれない。この 講座では、ミステリー小説に登場する「美女」とやらの 女性に注目し、その描かれ方や役割などの変遷について 比較文学的に考えたいのである。

見出しのテーマで私が講演します。大阪府立大学女性



学研究センターが主催する2013年度 第17期女性学講演 会の第1回です。どなたでも受講していただけます。

◇とき 11月16日(土) 14~16時(13時半開場)

15時半~16時 講演者との質疑応答

- ◇ところ 大阪府立大学 I-site なんば (大阪市浪速区敷 津東2-1-41 南海なんば第1ビル2階)
- ※南海電鉄なんば駅中央出口南へ約800m、徒歩約12

- ※建物北側の大阪府立大学専用入口からお入りください =**前ページの地図参照**
- ◇受講料 500円 (大阪府立大の学生・大学院生・教職員は無料)
- ◇申込方法 氏名(ふりがな)、住所、電話番号を記してEメールまたはファクスでお申し込みください
- ※お申し込みの際の個人情報は、本講座の事務連絡、統 計資料等の作成および本学公開講座等のご案内に使用 します。利用目的以外の使用は一切しません
- ◇申込先 大阪府立大学女性学研究センター(Eメール joseigaku@gmail.com ファクス 072-254-9947)

生活・産業・医療につながる 第2回「はかる」シンポジウム

大阪市計量検査所さまから

【第一部 基調講演】テーマ:「はかる」ことの積み重ね~心臓病の診断からから手術まで~。講師は大阪市立総合医療センター副院長・循環器センター部長・心臓血管外科部長の柴田利彦氏

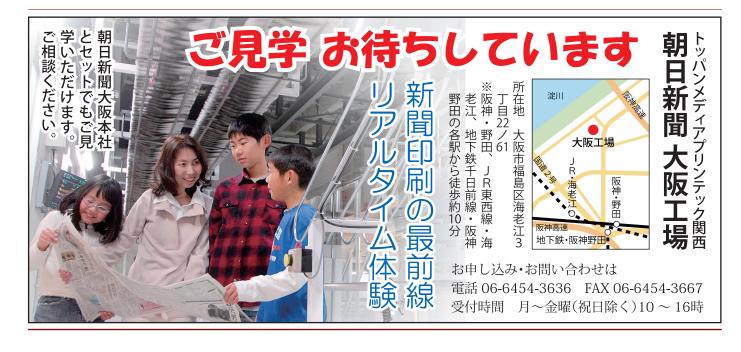
【第二部 パネルディスカッション】テーマ:生活になくてはならない「はかる」ということを考えよう!。 出演は次の各氏

コーディネーター 藤原明・りそな総合研究所プロジェクト・フェロー/今西正則・大阪市計量検査所所長パネリスト 柴田利彦/奥野武俊・大阪府立大学理事長・学長/小林洋・オムロンヘルスケア執行役員常務/

坂口智美・フリーアナウンサー=市民代表

【第三部 抽選会】来場者の中から抽選で、血圧計(15台)、分銅(200g、50器)をプレゼントします

- ◇とき 11月17日(日)13時半~15時半(開場12時半)
- ◇ところ りそな銀行大阪本社ビル講堂(大阪市中央区 備後町2-2-1) = 建物の地下です
- ※地下鉄堺筋線堺筋本町駅17号出口北へ徒歩約3分。地 下鉄御堂筋線本町駅3番出口東へ徒歩約12分
- ◇定員560人。参加無料。申込制。多数のときは抽選
- ◇申込方法・期間 住所、氏名、電話番号を明記して次のいずれかへ、10月1日(火)~21日(月)の間にお送りください。参加が決定した方には、当日用の参加票(はがき)を送ります
- ・はがき 〒552-0005 大阪市港区田中3-1-126 大阪市 計量検査所「はかる」シンポジウム係。当日消印有効
- ファクス 06-6577-5808へ。申込者のファクス番号 も明記してください。ホームページ http://www.city. osaka.lg.jp/keizaisenryaku/page/0000235493.html から、 申込用紙が付いたチラシをダウンロードできます
- ・ E メール keiryou5889@city.osaka.lg.jp
- ※1件でお1人分に限ります。複数での参加を希望される場合は、人数分を別々にお申し込みください。座席が必要な連れのお子さまの分も、別にお申し込みください
- ※車椅子でのご来場希望、手話通訳が必要な方は、その 旨をお書きください
- ※参加票の発送をもって発表に代え、落選された方には 連絡しません。ご了承ください
- ◇当日、りそな銀行で家庭用計量器を無料検査します。 はかり、腕帯がゴムチューブでつながれている血圧 計、体重計、耳式以外の体温計が対象。申し込み不要
- ◇主催・お問い合わせ先 大阪市計量検査所(☎ 06-6577-5888 平日9~17時半)



消し去られる「公共の福祉」

石川 健治・東京大学教授(憲法学)招き勉強会

自民の改憲草案は夜警国家への逆戻り

関西スクエアが企画する大阪本社編集局の第3回勉強会は9月11日にあり、講師に憲法学者で東京大学法学部教授の石川健治さんを招いた。

テーマは「自民党の憲法改正草案」。石川さんは、さる5月3日付朝日新聞朝刊オピニオン面に「憲法はいま 96条改正という『革命』」を寄稿し、反響を呼んだ。

石川さんは草案が「公共の福祉」を消し去り、代わりに「公益」や「公の秩序を」を用いている点に着目。「憲法を扱う人がいかに憲法を知らないか」と切り出した。

公共の福祉を軸に、アリストテレスの古 典古代から19世紀以降の憲法学、国家学の



経緯を概観。啓蒙専制君主は「人民の福祉」を国家の目的に掲げた。しかし、戦争に継ぐ戦争で、国民の権利を制約した。そこで、自由国家は福祉を国家の目的に掲げず、警察は公の秩序を維持する最小限度の作用に縮減された。しかし、それでいいのかという疑問から積極国家、福祉国家が生まれ、「福祉」が再登場した。その段階にできたのが日本国憲法だ……と説いた。

そして、「公共の福祉は個人対個人の局面しか考えず、日本を悪くした諸悪の根源だ。もっと公のことを考える観念が必要。 そう議員さんたちは考えたようだが、福祉国家からもう一回、夜警国家、自由国家の時代に戻ろうとしている」と批判した。

憲法前文や9条、国防、96条、立憲主義にも触れ、「改正草案は人類普遍の原理を否定しようとしている」「自民党は一部のイデオロギー勢力が目立つ、小さなサークルに弱体化した」と語った。

・・・・ 事務局から・・・・

▼高田都さんの「銀二貫」(幻冬舎時代小説文庫)。第 1回の大阪版本屋大賞に選ばれ、大阪では平積みしている本屋も目につく。舞台は江戸時代の大坂・天満の寒天間屋。敵討ちで父をなくし、天涯孤独になった少年が大火などの困難に直面しながら、新しい寒天作りに挑む。「天下の台所」と呼ばれた町も、大火や飢饉があって庶民の暮らしは苦しかった。「始末、才覚、神信心」が大坂商人の大切な心がけで、丁稚のしつけは厳しかった。登場人物はいずれも情が深く、誠実な生き方をしている。

作品の世界から約200年。政府や自治体の力に依存せず、自らの才覚に頼って新しいビジネスを生み出そうとする。そんな心意気の経済人は、今の大阪にも少なくないと思いたいのだが。 (大峯)

▼若い人が集った取材先で突然、詩を朗読させられた。 記者→文字を扱う人→ならば読むのも得意だろう、と大 きく誤解されたようだ。こんな経験は中学生のとき以来 だ。郷里の茨城弁は発音が汚くて、声を使う仕事に全く向かない。冷汗三斗の思いで読んだら、意外にも褒められた。「ゆっくりなのが、とても良い」。もちろんヨイショしてくれたのだろうが、思い当たることがある。様々な分野で、すばらしい実践活動に取り組む関西スクエア会員が大勢いる。スピードを競わず、損得抜き、勝ちも負けもなし。ひた向きに打ち込む姿を拝見すると、こちらも引き込まれ、時間が経つのをすっかり忘れる。本物のスローライフの心を、みなさんから分けていただいているおかげで、自分でもこの頃、話しぶりや物腰が何となく、ゆったりしてきたなと感じている。 (黒沢)

▼「中之島どくしょ会」はいつも定員を大幅に上回るご 応募を頂きます。すべてのみなさんにご参加いただける といいのですが、会の趣旨から、抽選をさせていただい た上で聴講券をお送りしています。楽しみにしてくださ っていながら残念ながらご参加いただけなかった方々 も、会報の詳報でお楽しみ頂けると幸いです。 (北野)

朝日新聞 関西スクエア事務局

スタッフ:大峯 伸之、黒沢 雅善、北野 順子、小西 良昭、柏崎 歓、諏訪 和仁、小宮山 亮磨 で連絡・お問い合わせはこちらへ → 〒530-8211 大阪市北区中之島2-3-18 朝日新聞大阪本社内 ファクス: 06-6232-2347 Eメール: square-k@asahi.com.

URL:http://www.kansai-square.com 過去の会報も、ご覧いただけます

2013.10 Asahi Kansai Square 【全面広告】



大学入試に出る! 朝日新聞。



朝日新聞の記事は、2013年度の大学入試で

問題に採用されました!

なんと半数が朝日新聞から! 朝日新聞と他の全国紙の2013年度出題実績 出題問題数 E紙 3% 文系理系を問わず、 D紙 13% C紙 14% 入試問題の半数で 朝日新聞の記事が B紙 20% 採用されています。 ※大学通信調べ。新聞とウェブサイトから

わかりやすく、論理的な 3つの記事がよく出る!

掲載紙面ランキング BEST3

l⑫ 天声人語

(採用数 96)

オピニオン面 (採用数 80)

社説

(採用数 58)

※朝日新聞社調べ(2013年5月20日現在)

毎年、この3つの記事が多くの大学で入試問題として 出題。朝日新聞出題記事の半数以上を占めています。

朝日新聞のお試し読み・ご購読は フリーダイヤル 0120-33-0843(7時~21時)

インターネット

朝日新聞 おためし

